令和７年度　第２回　三ヶ日中学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開 催 日 時　　令和７年７月９日（水）　１４時３０分から１６時３０分まで
２　場　　所　　三ヶ日中学校　会議室
３　出 席 委 員　　髙橋一浩、御園崇、渥美浩明、外山昭博、岡本和久、長坂恭輔、
　　寺田祐真、清水久美子、清水巨久、鈴木あゆみ
４　欠 席 委 員　　なし
５　オブザーバー　　井口敏浩（三ヶ日協働センター）
６　学　　校　　金子直由（校長）、宮津宗之（教頭）、坂田真之介（教務主任）、
　　西田光男（CS ディレクター）
７　傍　聴　者　　なし
８　会議録作成者　　CS ディレクター　西田光男

９　議長の選出について
　司会の宮津教頭から、議長の選出について意見を求めたところ、委員よりこれまで同様に高橋会長を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

１０　協 議 事 項
（１）学校評価アンケートの項目確認
（２）「休日部活動の地域移行（展開）」に向けて
（３）「総合的な学習の時間」の充実に向けて

１１　会 議 記 録
　司会の宮津教頭から委員総数 10 人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）学校評価アンケートの項目確認
　議長の指示により、教務主任の坂田教諭から別紙資料に基づいて、学校評価アンケートの質問項目改善の説明があり、意見を求めたところ、委員より以下の発言があった。
・質問項目が３つから２つになり、分かり易くなっている。（寺田委員）
・分かり易くなっていてよい。（鈴木委員）（渥美委員）

（２）「休日部活動の地域移行（展開）」に向けて
　議長の指示により、校長から別紙資料に基づいて、部活動の地域展開についての説明があり、意見を求めたところ、委員より以下の発言があった。
・休日の部活動をどのように地域展開していくのか、具体的な施策が教育委員会から出されていないように思われる。簡単に移行できない地域やできない場合はどうすれば

よいのか見えてこない。保護者や地域が何とかするということなのか、企業はどのように関わってくるのか、費用や報酬といった部分はどうするのか、分からないことが多い。（外山委員）

→会費の徴収や金額、指導者の確保、部活動の運営方法、会場の使用など、未定なことが多い。（校長）

・「はまくる」の予算は確保されているのか、指導者の報酬はどうなっているのか、分かっているのか。また、休日に教員が指導することは可能なのか。（外山委員）

→報酬は出ると聞いている。出張の場合の費用も出る。休日に教員が指導することは可能で、その場合、教員は兼務申請をすることになる。（校長）

・PTA で部活動の地域移行を話題として取り上げたことはない。どう進んでいくのか分からないままである。やってみないと分からないのかもしれないが、この現状で果たして「やってみる」ということができるのか、という疑問がある。（清水巨久委員）

・この「部活動の地域展開」の発端は、「教員の働き方改革」なのか。（清水巨久委員）

→教員が部活動の顧問となるとき、その活動の経験者かどうかで差が出てしまうことは仕方がないことで、その問題への対応という面もある。（校長）

・現在、器械体操やバスケットボールは地域クラブがあるが、取り組みたい部活動が、今後地域にできるかどうかも問題である。（清水巨久委員）

・先程の校長の説明にあった名古屋は、どのような体制作りしているのか。（岡本委員）

→専門の部署があり、そこが地域の部活動について担っている。（校長）

→学校の部活動は隔週になっている地域もある。休日の部活動をまず地域に移行し、いずれ平日の学校の部活動をなくしていくという方向である。（教頭）

・高校で真剣に運動部活を取り組みたいという生徒が、中学校でスムーズに活動ができきるような流れがあるとよい。（髙橋委員）

・休日の部活動を地域展開した場合、主体は地域にあるのか、学校にあるのかが分からない。部活動の目標は学校だと「協調性を育む」という面もあると思うが、地域だと「スキルの進歩」に置かれるという印象がある。平日の部活動は学校主体で教育的な目標を立てていくと思うので、地域との目標の違いも生まれるという危惧もある。

（寺田委員）

・運動を全くしないというのは、思春期の子供たちにとって問題があると思われる。運動のスキルが高まっていけば、「強くなりたい」「勝ちたい」という気持ちになるのは自然なことで、それは学校で活動しても地域で活動しても同じであると思う。また、誰のための部活動で、誰のための部活動の地域展開なのかをということを見失ってはいけないと思う。（清水久美子委員）

・現在は、地域移行への過渡期にあり、生徒や教員への影響が大きい。生徒は移行前のこの現状をどう考えているのか、また、生徒はどうしたいと考えているのか把握するのは大切なことだと思う。また、少子化が進んでいく中、部活動の種類がどう淘汰されていくのか、という問題も大きい。（長坂委員）

・自分の子供を見ると、地域展開のことをあまり分かっていないように思われる。ただ、部活動は真剣にやっていきたいと考えているようだ。（鈴木委員）
・平日のみの部活や休日のみの部活ということもありえるのか。（渥美委員）
→そういうこともあり得る。名古屋は商業ベースの地域クラブがあり、公共交通機関が発達しているため、生徒が電車やバスを使って活動場所に向かうということが可能だが、浜松の場合、商業ベースのクラブの数は少なく、活動場所に向かうための公共交通機関も少ないので、同様には出来ない。地域の実情を踏まえてどうしていくのかが課題。（校長）

（３）「総合的な学習の時間」の充実に向けて

議長の指示により、研修主任の森下教諭から「総合的な学習の時間」の活動についての説明があった。昨年度までの活動を見直し、グループとして活動目標から個々の目標を重視しての活動を進める方針であるとの説明だった。また、中学生と地域の方々との接点作りを目標とした地域学校協働活動について教頭から説明があった。委員に意見を求めたところ、それぞれについて以下のような発言があった。

Ａ 通常の「総合的な学習の時間」に目指す生徒像と地域の関わり

・私がアドバイザーとして総合の時間に話をしたときは、生徒たちが３グループに分かれていて、それぞれに 20 分ずつ時間をとって同じ話を繰り返した。内容は、自分の仕事とブルーレイクの活動についてだった。とても良い取り組みであると思ったが、生徒たちが求めている情報がはっきりしないままだったので、少し戸惑ったところもある。学校もどのようなスタンスで進めていくのか模索しているのであろうと感じた。今後、どのような形で協力していけばよいのか私たちも手探りである。（岡本委員）
・私は、働くことのへの意識を変革してほしいというねらいで、話をさせてもらった。話を聞いて、子供たちがどう感じたのかが分かるとアドバイスする側もブラッシュアップできる。アドバイザーと生徒の相互のやり取りがあれば、活動がよりよくなっていく。（寺田委員）
・私は、大学生の就活を支援する活動に取り組んでいるが、社会の中で働くことに対してネガティブなイメージを持っている学生が多いように思う。そういう負のイメージではなく、働くことにやりがいや楽しさを見い出せることを伝えていきたいと考えている。（長坂委員）
・今までの成果と課題について知りたい。「三ヶ日町をどう活性化していくのか」「自分がどう生きてくのか」といったことは明確になっているのか。（外山委員）
→今まで三ヶ日町の大人の方々の活動を見たり、アドバイスを受けたりする活動を通して、自分たちにもこんなことができるんだという成就感を味わうことができたと思われる。また、感謝や感銘の気持ちももったことと思う。ただ、20 人から 30 人の大人数のグループ活動であったため、個々に真の学びがあったのかという指摘もあった。リーダーの一部の生徒とそれに従う生徒とでは学びの質に違い

があると考えられた。本校の総合的な学習では自分の行き方を考えることをメインとして考えている。そこで、個の視点を大切にして活動のめあてを立てることは重要で、その活動のめあてに対して人々の支援を得て学習を進めていけたらと考えている。また、先程ご意見のあったフィードバックについては、近いうちに生徒たちの感想などをお知らせする予定である。（森下教諭）

B 地域学校協働活動（①朝活での地域の方のスピーチ　②三ヶ日地区ふれあい講座）

- 講座の講師となる人材を探すのは可能なことではあると思う。ただ、そのテーマによっては活動が長期にわたることも考えられるし、講座を設定したものの希望者なし、という事態も場合によっては考えられる。そこで、生徒の希望や需要といったものを先に確認し、それに合わせて講師を探していくのがよい。（寺田委員）
- 県では「初級リーダー養成講座」というものがある。小学校でこの講座を経験した子供が、中学・高校でも経験することで小学生に教えられるようになり、大学生でも経験すると、中高生に教えられるようになるというように徐々にステップアップできていく。（御園委員）
- 町づくり協議会の中にも講座を持っている方がいるし、文化協会の方々の中にも講師が可能な方がいらっしゃるかもしれない。（渥美委員）
- 可能なら保護者も一緒にその講座を受ければ、親子での話題づくりになる。（鈴木委員）
- 活動例①の「未来の創り手のスピーチを聞こう」というのは、毎回違う方々を想定しているのか。また、時間が 15 分ということだが、短いように思う。自己紹介をするうちに終わってしまう。また活動例②の「三ヶ日地区ふれあい講座」は趣味や生活を豊かにするような体験という内容でよいのか。それでよいのなら、講師以外の、その場を盛り上げるような役割を果たす大人がいてもよいと思う。（岡本委員）
- 「キャンドル教室」のような体験でよいのなら提供できる。（長坂委員）
- 地域の方々と共有する時間というのはとてもよい。教育課程の中で、年数回、企画していくとよい。ブルーレイクの方々は地域貢献活動をしているので、①のスピーチにしっかりと時間が取れるとよい。中学生がマンパワーとなって地域貢献できるようになるとよい。例えば、防災活動や災害があったときの救援活動など際にも期待ができる。８月の活動の時に話し合える時間が持てるとよい。（外山委員）
- ②は同じ日の同じ時間に講座を開くことになるので、そこに合わせて講師を集めるというのは、なかなか難しい。ダンスや筋トレの講師なら、中学生でも講師を見つけてくるといことも可能だと思う。（寺田委員）

司会から、次回会議は、2025年１１月２１日（金）午後２時 30 分より三ヶ日中会議室にて開催する旨の連絡があった。